

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 20 年 7 月 24 日 (2008.7.24)

【公表番号】特表 2008-504404 (P2008-504404A)
 【公表日】平成 20 年 2 月 14 日 (2008.2.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2008-006
 【出願番号】特願 2007-518309 (P2007-518309)
 【国際特許分類】

C 0 8 G 63/91 (2006.01)

C 0 8 G 63/08 (2006.01)

C 0 8 G 59/40 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 63/91

C 0 8 G 63/08 Z B P

C 0 8 G 59/40

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 6 月 5 日 (2008.6.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

末端水酸基若しくはカルボン酸基、又は末端水酸基及びカルボン酸基の両反応基を持つポリラクチド樹脂と、1 分子あたり平均 2 ～ 15 個の遊離エポキシ基を持つアクリルポリマー又はコポリマーとの反応産物からなり、このアクリルポリマー又はコポリマーの重量平均分子量が 1,000 ～ 6,000 であり、かつエポキシ基あたりの分子量が 150 ～ 700 である、長鎖の分枝を持つ溶融加工可能なポリラクチド樹脂。

【請求項 2】

前記反応産物において、前記アクリルポリマー又はコポリマーが、開始ポリラクチド樹脂 1 モルあたり 0.5 モル以下である請求項 1 に記載のポリラクチド樹脂。

【請求項 3】

前記アクリルポリマー又はコポリマーが、開始ポリラクチド樹脂 1 モルあたり 0.05 ～ 0.4 モルである請求項 2 に記載のポリラクチド樹脂。

【請求項 4】

前記開始ポリラクチド樹脂が、分子あたり平均 0.8 ～ 1.5 個のカルボキシル基を含有する請求項 2 に記載のポリラクチド樹脂。

【請求項 5】

前記開始ポリラクチド樹脂が、ポリスチレンを標準物質としたゲル浸透クロマトグラフィーによる測定で、数平均分子量が 30,000 ～ 250,000 である請求項 4 に記載のポリラクチド樹脂。

【請求項 6】

前記開始ポリラクチド樹脂が、1 分子あたり平均 0.8 ～ 1.25 個の末端カルボン酸基を有し、かつ前記アクリルポリマー又はコポリマーが、1 分子あたり、平均 2 ～ 10 個の遊離エポキシ基を有する請求項 1 に記載のポリラクチド樹脂。

【請求項 7】

熔融加工可能なポリラクチド樹脂とアクリルポリマー又はコポリマーとの混合物を該ポリラクチド樹脂のガラス転移温度以上まで加熱する工程からなる方法であって、該ポリラクチド樹脂が少なくとも 40 のガラス転移温度を有し、かつ末端水酸基若しくはカルボン酸基、又は末端巢酸基及びカルボン酸基の両反応基を有し、該アクリルポリマー又はコポリマーが 1 分子あたり平均 2 ～ 15 個の遊離エポキシ基を持ち、このアクリルポリマー又はコポリマーの重量平均分子量が 1,000 ～ 6,000 であり、かつエポキシ基あたりの分子量が 150 ～ 700 である、熔融加工可能なポリラクチド樹脂に長鎖分枝を導入する方法。

【請求項 8】

開始ポリラクチド樹脂と、1 分子あたり平均 2 ～ 10 個の遊離エポキシ基を持つアクリルポリマー又はコポリマーとの反応産物であって、開始ポリラクチド樹脂 1 モルに対し、アクリルポリマー又はコポリマーが 0.5 ～ 2.0 モルであり、このアクリルポリマー又はコポリマーの重量平均分子量が 1,000 ～ 6,000 であり、かつエポキシ基あたりの分子量が 150 ～ 700 である、遊離エポキシ基を有するポリラクチド樹脂。